



Press Information

VPR06-015

2006年4月6日(木)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲンの2005年度輸入車登録台数、「6年連続No.1」達成

昨年は「ゴルフ GTI」「ゴルフ プラス」で小型車を強化、今後は上級セグメントへの本格挑戦を積極的に展開

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(略称:VGJ、代表取締役社長:梅野 勉)が集計した、2005年度('05.04~'06.03)の国内登録台数が53,849台(JAIA調べ)となり、暦年(2005.01~12)に続き、年度においても6年連続「輸入車ブランドNo.1」のポジションを堅持しました。また、今年の第1四半期の国内登録台数も16,251台(前年比:+3%、15,843台)に達し、昨年実績を上回るなど、好調な滑り出しとなっております。

小型車から上級車までを取り扱うフルラインアップメーカーを目指すフォルクスワーゲンは、今まで得意としてきた小型車の分野を一層強化するために、昨年、「ゴルフGTI」「ゴルフ プラス」などを市場導入してまいりました。また、2006年の初頭からは、上級車セグメントへの本格挑戦という目標を掲げて、1月に新型「ジェッタ」、3月には新型「パサート」を発表するなど、積極的なチャレンジを展開しております。

今後は、今年上半期導入モデル(ジェッタ、パサート)により、製品力を強化しながら、継続的な販売網やアフターサービスの拡充、つまりお客様のフォルクスワーゲンを通じた「総合的所有体験」によるブランド価値の向上を目指します。

【2005年度のトピックス】

① [ゴルフGTI] 当初予想を大きく上回る受注

小型ホットハッチの元祖である「ゴルフGTI」は、発売('05.6)以来の累計受注台数が5,500台を超えるなど、このセグメントにおいて圧倒的な人気を誇っています。また、2月に発売した「ゴルフR32」の受注もすでに750台を超えるなど、ゴルフシリーズの高価格帯の販売も好調に推移しています。

② [ゴルフ プラス] お客様のライフスタイルに「彩り」を与える新しい提案、「ゴルフ プラス」

日本のコンパクト市場の主流とも言える全高1,500mm超の競合車が多数ひしめく中で、「ゴルフ プラス」は、輸入車としての存在感を強くアピール。発売('05.11)以来、ゴルフ トゥーランとともに、ゴルフシリーズの販売に貢献しています。

【今後のトピックス】

① [新型ジェッタ] 上級セグメントへの本格挑戦の第1弾

新型「ジェッタ」の受注は予想を越え、2月上旬の発売以来、累計1,500台以上に達しています。購入要因は、ちょうど良い大きさ、デザイン、充実した装備と走り、価格などであり、国産、輸入セダンからのお乗換えも進み、当初期待していたお客様の獲得にも成功しています。

② [新型パサート] 上級セグメントへの本格挑戦の第2弾

「快適性の新しいスタンダードの実現」をキーワードにひとクラス上の最新装備で誕生した新型「パサート」は、FSI(直噴)エンジンや先進的なトランスミッション(6速AT, 6速DSG)による燃費の向上と、スポーティーな走りを両立しています。319万円(税込)のエントリーモデルから、最上級の四輪駆動車「V6 4MOTION」に至る幅広いラインアップを取り揃えた、上級セダン&ヴァリアント(ワゴン)は、ヨーロッパでは高い評価を得ており、「ジェッタ」同様、今後の日本におけるフォルクスワーゲン販売にも大いに貢献するクルマとして期待されています。